

好評 こだわりのトマト

三種町鶏川の成田建設（成田保社長、社員三十六人）が二年前から「ミニトマト」の「のりちゃん」の生産に取り組んでいる。自家製の堆肥や無農薬栽培にこだわった濃厚な甘さが特徴。種苗交換会で県知事賞を受賞するなど品質の良さは実証済み。今季は加工品のゼリーも開発した。公共事業が先細りする中、生き残りを懸けて異業種に参入し奮闘している。

三種町

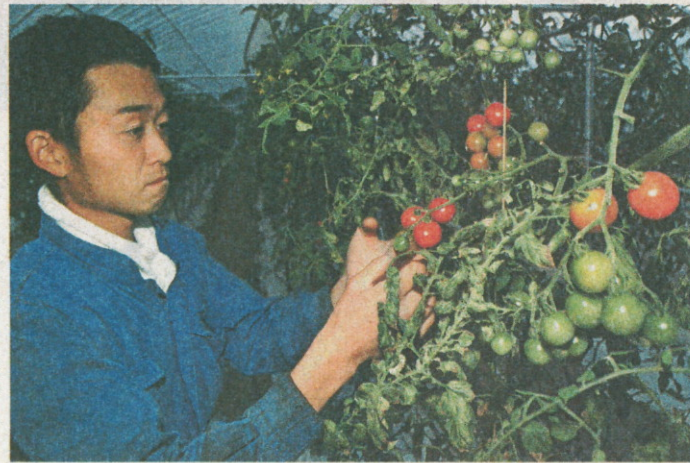
異業種参入し奮闘

成田建設は土木、建築で具格付けはA級。成田社長は年ほど前、無農薬栽培に力を入れている知人の農家から「マトを紹介されたのをきっかけに、「本業以外で利益を出す必要がある」との思

いで新規事業への挑戦を決定。一年がかりでノウハウを学び、二〇〇六年七月、同町浜田に土地約百二十平方メートル購入、「みのり農園」を整備し栽培を本格化させた。既存のトマトと差別化を図

るため、もみ殻に米ぬかなどを交ぜ合わせた自家製の堆肥作りや、通常のハチより購入が割高となるマルハナバチを使って受粉精度を高めるなど、栽培過程には徹底的にこだわった。その結果、水分を抑えるなどして、糖度八度以上の甘さを引き出すことに成功。同年、試しに出品した第百二十九回県種苗交換会で県知事賞を受賞した。

現在は約千二百平方メートル、計六棟のビニールハウスで年間約七トを生産。「建設業者が作るミニトマト」の評判は、町内外に口コミで広がりつつある。今季は、ミニトマトを凝縮したゼリー「トマトより



トマトなジュレ」を社員の提案で開発。ミニトマトと並ぶ主力商品に育てたい考えだ。「会社とトマト両方が実るよつに」との願いが込められたみのりちゃん。成田社長は「サイドビジネスのつもりは

質維持のため、日照時間が短くなった今季は今月下旬で販売終了。トマトは一パック百五十円、ゼリーは一個二百八十円。問い合わせは成田建設 ☎0185・85・2401

建設会社の社員が作るこだわりのミニトマト。濃厚な甘みが特徴

ない。販路を拡大し、（生産から）五年目までには黒字化した。厳しい環境に苦しむ同業者の励みになればうれしい」と話している。